

G-1 多賀城市八幡地区

2011年11月4日(金)

報告者名	菊地 暁	被調査者生年	① 1936年(男)
調査者名	菊地 暁	被調査者属性	① 農業
補助調査者	沼田 愛		

被調査者(主な話者は話者①と話者②)

- *話者①の父(1916年生まれ)
- *話者①(1936年生まれ)
- *話者①の妻(生年未確認、仙台市福田町出身)
- *話者②(1943年生まれ)

概況

多賀城市八幡地区の国道45号線北側の一帯は、もともと田畑で、昭和17年の海軍工廠建設にともない移転させられた農家に移り住んだ土地である。移転させられた旧沖区(中谷地村、宮内村、原村)の家々は、それぞれ固まって住んでいる。一部の住人は市内の笠神や、隣接する仙台市、塩竈市にも移転している。平成23年3月11日の震災では、移転前の土地には3メートルの津波が襲ったが、現在の住まいでは1階床上浸水程度にとどまった。昔のままの土地に住んでいたら、大変なことになったと思っている。

生業・生活

移転したのはほとんど農家であり、移転後も農業を続けているが、現在では若い人の多くは勤め人になっている。海軍工廠建設にともない接収された桜木・明月台の農地は戦後戻ってきたが、昭和39年の新産業都市指定にともない再び買収され、現在は八幡小学校の近く農地がある(話者①)。話者②の農地は陸上自衛隊多賀城駐屯地や仙台新港のあたりにもあった。農地は田と畑が半々ぐらい。畑は秋から春には小麦を、春から秋にかけてはキュウリ、ウリ、スイカ、ナス、ゴボウ、ニンジン、ナガイモなど何でも植えた。海岸に近い農地は砂地のため、畑にしかならなかった。

果樹栽培では梨が盛ん。梨畑はあちこちにあり、八幡神社のあたりも梨畑だった。戦後、元市長・鈴木和夫のお祖父さん[多賀城村長?]の頃、食料増産の時期で「どれだけ植えても良い」というので、高崎の今の「さざんかの森」に馬車で苗木を運び、梨の木180本を植えた(話者②)。その後、史跡整備事業により買い上げられ、隣接する民家も移転した。多賀城廃寺のあたりで、掘ると刀鍛冶の跡などいろいろなものが出てきた。

畑で獲れた野菜はおばあちゃんがリヤカーで塩竈に売りに行った。青果市場に卸すのも塩竈が多い。逆に塩竈から自転車で行商が来ることも多かった。商売では塩竈との付き合いが深い。

どちらかといえば自給自足的な暮らしが続いたのは高度成長の頃まで。昭和 48 年、新産業都市指定により整備された仙台新港にフェリーが就航すると、トレーラーの運転手が少ないということで、農作業の傍ら、運転手として働きに出た（話者 ②）。ソニーの前身である東京通信工業株式会社や日立、東北電力などの工場が建設され、長男は畑仕事、次三男が工場勤務というのが多くなった。

社会組織

旧沖区の三村では中谷地が最も古く、最初に宮内が分かれ、次いで原が分かれた。

近所づきあいは移転後も変わりなく続いている。現在でも中谷地、宮内、原の旧住民がそれぞれまとまって住んでおり、それぞれに契約講がある。周辺では契約講を止めたところも多いが、親睦のためにはあったほうが良いということ話し合った結果、続けている。

契約講に加入する年齢は特に定められてない。話者 ② は先代に「勉強になるから」と勧められ、40 歳そこそこで加入、年長の話者 ① よりも先だった。契約講以外の年齢集団はない。成年式のようなものも特にない。

話者 ① は昨年からは契約講の講長を務めている。かつて話者 ① の父も務めていて、そのあと 2、3 人別の方がつとめて、話者 ① になった。年 1 回、3 月第 1 日曜に講員が集まって飲み食いしている。もともと講員の家で持ち回りだったが、後に公民館を使うようになり、現在は「移動契約」といって、会費制で松島あたりに日帰りで行っている。公民館でやっていた頃はモチをつけて、あんころモチを食べた。今年は出かけるのを中止して、近場の食堂で食事だけした。

中谷地の講員は 16 軒。萩原神社の氏子もこれと同じであるため、神社の運営も契約講で相談する。当番の回し方も昔から変わらない。帳面の類も残っている。昔は講長が冠婚葬祭を差配し、葬儀になると、誰それは米をもってこい、誰それは野菜をもってこい、誰それは人出だけで良い、と、それぞれの家の事情を踏まえて分担させた。六尺、穴掘などもそうやって決められた。葬祭業者が入ってきてからは、そうしたことはしなくなった。宮内では震災で亡くなった人もおり、契約講で見舞金を集めた。

中谷地では「大場」姓が多いが、親類の集まりといったものは特にない。話者 ① 家は話者 ① の父で 5 代目になり、A 家が本家らしいが、ホンケベツケの付き合いはしていない。話者 ② 家は 350 年前から続いており、東田中の JA の近くに住む B 家をタノミホンケとしてホンケベツケの関係を結んでいた。新築祝いなどで贈答があったが、現在は特に付き合いはない。新築祝いも最近ではホテルを借りてすることが多く、自宅ではされなくなっている。

話者 ① 家の檀那寺は仙台市宮城野区蒲生鍋沼の専能寺（浄土真宗）である。墓場はもともと移転前の家の前、現在の三菱農機跡地にあり、ノランバといていたが、移転に際して専能寺に移した。この寺も津波で被災した。

話者 ① は昭和 36 年に、話者 ② は昭和 39 年に、それぞれ自宅で結婚式を挙げた。婿、仲人、親類で嫁を迎えに行き、嫁の家で儀式を挙げた後、嫁の親類とともに婿の家に戻り、そこで儀式を挙げた。新郎新婦と仲人が正面に座り、両家の近いひとが上座から順に座った。順に杯を回し、仲人の謡いもあった。移動はバスを使い、タンス、三面鏡などの嫁入り道具はトラックで運んだ。嫁入り道具は津波で油混じりの海水に浸かってしまい、全部ダメになった。

年中行事

中谷地の氏神は萩原神社。昔は「喜宝院様」ともいった。氏子は中谷地の契約講と同じ。もともと9月9日が祭日だったが、人が集まりにくくなったので今は第1日曜日としている。神社を参拝した後、直会をする。以前はかあちゃんが里芋の蒸かしたものを用意した。近年は直会の料理は仕出し屋に頼んでおり、それにはおふかし（赤飯）が用意されていたが、あまり食べられないのでここ2年は止めている。話者①は話者①の父から昔は出店も出たと聞いている。鹿踊も3回ほど奉納した。

宮内は移転前から神社がなく、地蔵をお祭りするだけ。

原はもともと神社があり、中谷地の人の土地を借りてお祀りしていたが、後にその土地を返却した。神様をもてあましたらしい。今は中谷地のA氏がご神体を預かっていて、年1回、八幡神社の宮司に来てもらっている。

御釈迦講は2月15日に開催している。講員の家にお釈迦様の掛け軸をかけてお参りした後、飲食する。原や宮内など旧沖区の人も参加する。市内・笠神の下馬に移転した「アメリカ屋」（屋号、先祖に渡米した人がいる）も参加する。ここ5、6年は小野屋ホテルで開催している。掛け軸は下馬に居住している講員が持っている。

古峰ヶ原講は年1回、3月末に行っている。講員は旧沖区の人。現在は旅行会社のツアーに参加して参詣している。

鹿踊は移転により長らく中断していた。昔は歌もあり、正月には門付けもしていたらしいが、話者①も移転前に鹿踊を見た記憶がない。現在の伝承は本来のものではない。多賀城市の市政施行（昭和46年）に際して、何か民俗芸能が残っていないかということで鹿踊を復活させることになった。中谷地出身で下馬在住の石橋久作さん（明治生まれ）が復活の中心になった。囃子は仙台フィルの片岡良和さんが五線譜に記載、それを話者②がもとに数字で表記した分かりやすい譜面をつくり、それによって演奏している。フレーズの繰り返しにも微妙な違いがあったのを、単純な繰り返しにして簡単にした。話者②が笛を担当したのは、尺八の経験があるからである。話者②の一族は芸達者で、父親と祖母が謠の師匠をしており、納屋の2階を会場に青年7、8人に謠を教えていた。鹿踊の振り付けはモダンダンサーである片岡良和さんの奥さんがした。鹿踊復活を記した石碑があり、世話人はC氏、笛は話者②の名前、太鼓はD氏などの名前が刻まれている。市指定文化財になっており、補助をもらうにあたっては収支の管理をしっかりとしなければダメとのお達しがあった。現在の保存会メンバーは30～50代とさまざま。もともと何歳頃からやっていたのかもよく分からない。動きが激しくなかなかしんどい。後継者も不足している。小学校でも保存継承活動に取り組むようになっている。

震災その後

現在の話者①家は昭和58年に建て替えたもの。その前の建物は移転してきた時には代用瓦の屋根で、戦後に本瓦に吹き替えた。津波は床上86センチまで浸水、襖や壁に跡が残っている。浸水時は話者①の父ら老人を介護施設に避難させ、自分たちは2階で水が引くのを待った。2ヵ月ほど後、畳を入れられる状態になってから老人に戻ってきてもらった。現在、震災による傷み

を補修中。

浸水した家具類の引出が開かなくて困った。裏からトンカチで叩いて出したが、まだ開かないものもある。写真アルバムなどもダメになった。くっついて単なる紙ゴミと化している。すぐに真水につければなんとかならしいのだが、後回しになってしまった。

震災で一番しんどかったのは機械が全部ダメになったこと。今年は塩害のため作付けはせず。トラクターだけ直したが、部品交換で百万円かかった（話者②）。田植機も50万円で直せるといわれたが、やめた。モミも流れてしまった。

萩原神社のご神体も、津波で流された。拾ってきてきれいにして、現在は話者①家の作業場の段ボールにしまっている。昭和47年に前の萩原神社を建て替えた時は97万円かかったが、今再建するとその四倍はかかる。今後、講員で積み立てして再建したいと思っている。